

シュロダー・ユーロ・エクイティ・ファンド

為替リスク軽減型／為替ヘッジなし

愛称 ユーロの匠

追加型投信／海外／株式

交付運用報告書

第11期(決算日2023年6月12日)

作成対象期間(2022年12月13日～2023年6月12日)

為替リスク軽減型

| 第11期末(2023年6月12日) | |
|-------------------|---------|
| 基準価額 | 10,040円 |
| 純資産総額 | 95百万円 |
| 第11期 | |
| 騰落率 | 3.1% |
| 分配金(税込み)合計 | 0円 |

為替ヘッジなし

| 第11期末(2023年6月12日) | |
|-------------------|---------|
| 基準価額 | 10,758円 |
| 純資産総額 | 469百万円 |
| 第11期 | |
| 騰落率 | 9.1% |
| 分配金(税込み)合計 | 460円 |

(注) 騰落率は期末の基準価額に分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

- 交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。
- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、シュロダー・インベストメント・マネジメント株式会社のホームページにて閲覧・ダウンロードいただけます。
- 運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>

右記の委託会社のホームページの「投資信託一覧」から当ファンドを選択することにより、運用報告書(全体版)を閲覧およびダウンロードすることができます。

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

さて、「シュロダー・ユーロ・エクイティ・ファンド 為替リスク軽減型／為替ヘッジなし」は、このたび第11期の決算を行いました。

当ファンドは、マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に主としてユーロ圏各国の企業が発行する株式などに投資を行い、信託財産の成長を目指して運用を行います。当期におきましても、当該運用方針に沿った運用を行いました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

シュロダー・インベストメント・マネジメント株式会社

東京都千代田区丸の内1-8-3
丸の内トラストタワー本館21階

当運用報告書に関するお問い合わせ先

- ・投資信託営業部 電話番号 03-5293-1323
- ・受付時間 9:00～17:00(土・日・祝日は除く)
- ・インターネットホームページ <http://www.schroders.co.jp/>

Schroders

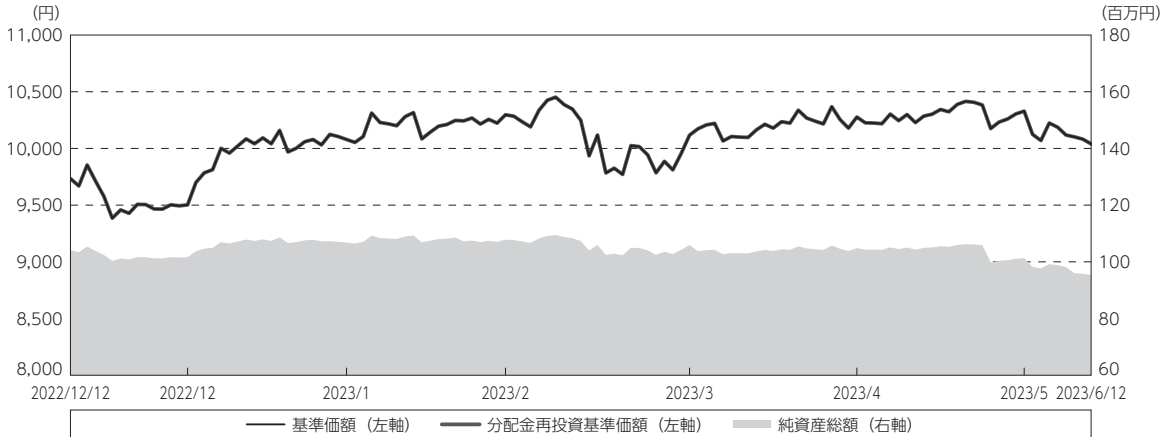
シュロダー・インベストメント・マネジメント

[為替リスク軽減型]

運用経過

期中の基準価額等の推移

(2022年12月13日～2023年6月12日)



期首：9,734円

期末：10,040円 (既払分配金(税込み)：0円)

騰落率： 3.1% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算しており、実際の基準価額と異なる場合があります。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、期首 (2022年12月12日) の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 当ファンドの値動きを表す適切な指標が存在しないため、ベンチマーク等は設けておりません。

○基準価額の主な変動要因

期首9,734円でスタートした基準価額は、10,040円 (分配後) で期末を迎え、期首比3.1% (分配金再投資ベース) の上昇となりました。

当ファンドは前期末比でプラスのリターンとなりました (ユーロ・ベース)。MSCI EMUインデックス (ユーロ・ベース) と比較した場合、セクター別では、情報技術や資本財・サービスの銘柄選択がプラス効果となった一方、素材やコミュニケーション・サービスの銘柄選択がマイナスの影響となりました。

銘柄別では、米国の半導体グループであるNvidiaが非常に好調な業績見通しを発表したことを受け、AIによる成長期待に対する熱意の高まりにより、情報技術セクターは大幅にアウトパフォームしました。オランダの銘柄で、半導体製造装置メーカーであるASMIインターナショナルや、統合型の半導体実装装置メーカーであるBEセミコンダクター・インダストリーズの保有が主にプラス効果となりました。一方、ドイツの医薬品メーカーであるバイエルの保有がマイナスの影響となりました。株価の下落は、2023年度の業績予想が弱い内容であったためと考えられます。同社は、他社が生産を中止し

た除草剤グリホサートの部門で2022年に大きな利益を得ましたが、2023年は製品価格が低下しています。また、中国での大量販売（ただし価格は低位）の契約も失いました。ただし、同社の事業部門の分離計画について、次期CEOより更なる情報が得られることを期待しており、この計画は大きな価値を引き出す可能性があると考えています。

1 万口当たりの費用明細

(2022年12月13日～2023年6月12日)

| 項 目 | 当 期 | | 項 目 の 概 要 |
|-----------------------|------|---------|--|
| | 金 額 | 比 率 | |
| (a) 信 託 報 酬 | 84 | 0.836 | (a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 |
| (投 信 会 社) | (42) | (0.411) | ・ファンドの運用判断、受託会社への指図 ・基準価額の算出ならびに公表 ・運用報告書等法定書面の作成、および受益者への情報提供資料の作成等 |
| (販 売 会 社) | (42) | (0.411) | ・運用報告書等各種書類の交付 ・口座内でのファンドの管理、および受益者への情報提供等 |
| (受 託 会 社) | (1) | (0.014) | ・ファンドの財産保管・管理 ・委託会社からの指図の実行等 |
| (b) そ の 他 費 用 | 6 | 0.059 | (b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 |
| (保 管 費 用) | (0) | (0.003) | ・保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用 |
| (監 査 費 用) | (6) | (0.055) | ・監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 |
| (そ の 他) | (0) | (0.001) | ・その他は、グローバルな取引主体識別子(LEI:Legal Entity Identifier)登録費用、金銭信託手数料等 |
| 合 計 | 90 | 0.895 | |
| 期中の平均基準価額は、10,100円です。 | | | |

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

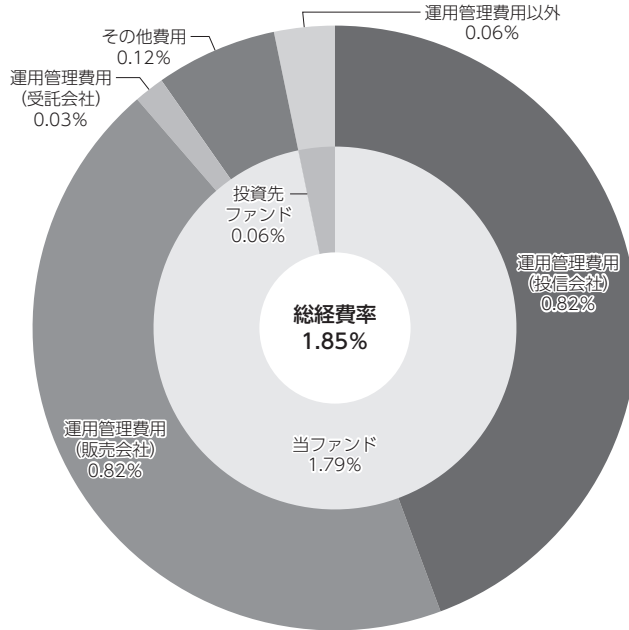
(注) 各項目の費用は、このファンドが組入れている投資信託証券（親投資信託を除く）が支払った費用を含みません。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

○総経費率

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.85%です。



(単位: %)

| 総経費率(①+②+③) | 1.85 |
|----------------------|------|
| ①当ファンドの費用の比率 | 1.79 |
| ②投資先ファンドの運用管理費用の比率 | - |
| ③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率 | 0.06 |

(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドの親投資信託が組み入れている投資信託証券です。

(注) 当ファンドの費用は、親投資信託が支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) 当ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 投資先ファンドの費用については、投資先ファンドの管理会社が発行する年次報告書（アニュアル・レポート）の記載に基づきます。なお、投資先ファンドの運用管理費用（信託報酬）は当ファンドの運用管理費用（投信会社分）から支払われるため、別に収受しておりません。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2018年6月11日～2023年6月12日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算しており、実際の基準価額と異なる場合があります。
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
 (注) 分配金再投資基準価額は、2018年6月11日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

| | 2018年6月11日 決算日 | 2019年6月10日 決算日 | 2020年6月10日 決算日 | 2021年6月10日 決算日 | 2022年6月10日 決算日 | 2023年6月12日 決算日 |
|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|
| 基準価額 (円) | 9,822 | 8,590 | 8,964 | 10,719 | 10,349 | 10,040 |
| 期間分配金合計(税込み) (円) | — | 0 | 0 | 650 | 140 | 0 |
| 分配金再投資基準価額騰落率 (%) | — | △ 12.5 | 4.4 | 26.8 | △ 2.2 | △ 3.0 |
| 純資産総額 (百万円) | 286 | 236 | 239 | 180 | 118 | 95 |

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
 (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
 (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。
 (注) 当ファンドの値動きを表す適切な指標が存在しないため、ベンチマーク等は設けておりません。

投資環境

(2022年12月13日～2023年6月12日)

当期のユーロ株式市場は上昇して終わりました。期初の2022年12月は下落しました。欧州中央銀行（ECB）が0.50%の利上げを決定した後、利上げを継続する方針を示したことが材料視されました。2023年1月は上昇しました。中国の経済活動の再開と、インフレの鈍化により金利のピークが近いことへの期待が支援材料となりました。2月は上昇し、エネルギー価格の上昇圧力が和らいだことを要因に、深刻な景気後退の懸念が緩和されたことが好材料となりました。3月は中旬にシリコンバレー銀行（SVB）など銀行の相次ぐ破綻を受けて米国の金融市場が混乱し、金融当局は投資家の懸念を払拭することに苦慮しました。欧州でも経営難に陥った金融機関のクレディ・スイスがスイス当局の仲介によりUBSに買収されるなど銀行セクターのボラティリティ（変動性）が高まりましたが、月末にかけて欧米の金融システムへの懸念が後退し市場は回復しました。4月も引き続き上昇し、企業業績が概ね堅調であったことが株価の支援材料となりました。5月は下落し、セクター別で半導体関連銘柄にけん引された情報技術が上昇した一方、その他の全セクターが下落しました。6月は当期末にかけて上昇しました。（株式市場の騰落は、ユーロ・ベースで記載しております。）

当ファンドのポートフォリオ

(2022年12月13日～2023年6月12日)

シュローダー・ユーロ株式マザーファンド（ユーロ）において、投資比率が高位であるシュローダー・インターナショナル・セレクトション・ファンド ユーロ・エクイティ クラスIの運用について

当期、ポートフォリオ構成の一部変更を実施しました。

セクター別では、ヘルスケアや一般消費財・サービスに対して強気の見方とし、保有比率を引き上げました。一方、素材やエネルギーに対して弱気の見方とし、保有比率を引き下げました。

銘柄別では、フランスの電気機器メーカーであるルグランに新規投資を行いました。住宅設備については、景気減速懸念、特に米国の住宅市場の低迷の影響を受けています。しかしながら、非住宅部門は回復しつつあります。同社は、強固なバランスシートを有している高クオリティ企業であり、運営も順調であると評価しています。電気機器業界は規制が強化されており、高い参入障壁があります。また、同社はデータ・センターの成長機会を有し、そのニーズはデジタル革命の進行とAIの利用と共に高まっている中、将来の高い成長に繋がると予想しています。一方、オーストリアの産業機器メーカーであるアンドリッツについては、株価が堅調に推移したため、利益確定のため全売却を行いました。

当ファンドのベンチマークとの差異

(2022年12月13日～2023年6月12日)

当ファンドの値動きを表す適切な指標が存在しないため、ベンチマーク等は設けておりません。

分配金

(2022年12月13日～2023年6月12日)

収益分配金につきましては、基準価額水準、市場動向、信託財産の規模等を考慮し、当期の収益分配は見送らせていただきました。なお、留保益については、特に制限を設けず、当社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

○分配原資の内訳

(単位:円、1万口当たり、税込み)

| 項 目 | 第11期 |
|-----------|----------------------------|
| | 2022年12月13日～ 2023年6月12日 |
| 当期分配金 | — |
| (対基準価額比率) | —% |
| 当期の収益 | — |
| 当期の収益以外 | — |
| 翌期繰越分配対象額 | 1,163 |

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

ユーロ株式市場は、2023年初来では深刻な景気後退が回避される中、底堅く推移しています。しかしながら、経済成長や金利の先行きについては依然として懸念が残ります。

雇用は引き続き堅調ですが、消費者の可処分所得が金利上昇によって圧迫され続ければ、特定のセクターで売上が縮小する可能性があります。また、消費者が特定の支出(例えば旅行など)を他の支出より優先させることも考えられます。

また、M&Aの動きが活発化する可能性があるかと、引き続き考えています。2023年4月に実施されたSoftware AGへの入札は、過去1年間に割安となった中小型の企業が魅力的な買収のターゲットになっていることを示しています。

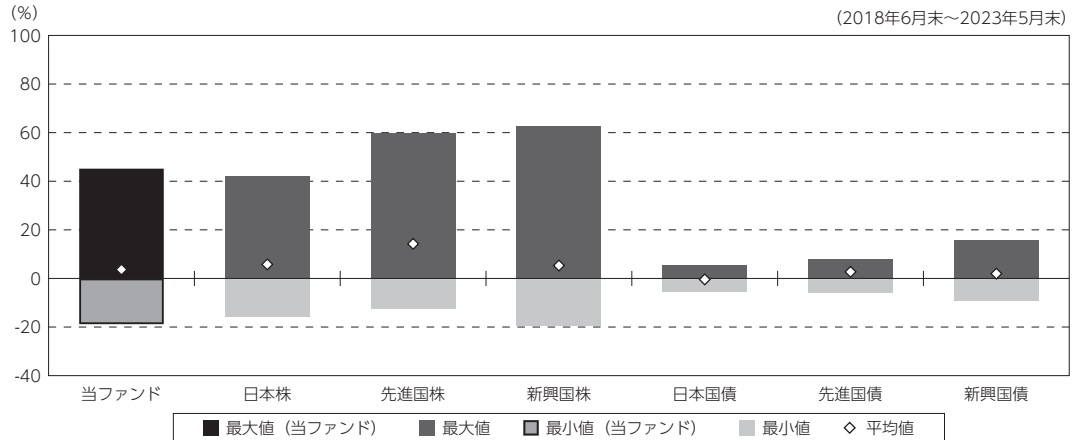
こうした環境下、当ポートフォリオでは引き続き銘柄固有リスクを重視し、スタイルやファクターにかかわらず成長要因を有し、株価が割安な水準にある銘柄を追求していきます。景気循環に連動する銘柄とディフェンシブ性を有する銘柄とのバランス、またグロース銘柄とバリュー銘柄とのバランスを維持した構成とする方針です。

当ファンドの概要

| | | |
|--------|--|---|
| 商品分類 | 追加型投信／海外／株式 | |
| 信託期間 | 2018年1月22日から2027年12月10日まで | |
| 運用方針 | 信託財産の成長を目指して運用を行います。 | |
| 主要投資対象 | 当ファンド | シュローダー・ユーロ株式マザーファンド（ユーロ） 受益証券を主要投資対象とします。 |
| | マザーファンド | <ul style="list-style-type: none"> ・ルクセンブルグ籍ユーロ建て外国投資法人 「シュローダー・インターナショナル・セレクション・ファンド ユーロ・エクイティ クラスⅠ投資証券」 ・ルクセンブルグ籍ユーロ建て外国投資法人 「シュローダー・インターナショナル・セレクション・ファンド ユーロ・リクイディティクラスⅠ投資証券」 ・ルクセンブルグ籍米ドル建て外国投資法人 「シュローダー・インターナショナル・セレクション・ファンド ドル・リクイディティクラスⅠ投資証券」 上記の指定投資信託証券を主要投資対象とします。 |
| 運用方法 | マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に主としてユーロ圏各国の企業が発行する株式などに投資を行います。実質外貨建資産については、原則として為替ヘッジによりユーロと円との間の為替変動リスクの低減を図ることを基本とします。 | |
| 分配方針 | 毎決算時（毎年6月10日および12月10日。ただし当該日が休業日の場合は翌営業日）に原則として経費控除後の繰越分を含めた利子・配当収入と売買益（評価益を含みます。）等から、基準価額水準、市場動向等を勘案し決定します。 なお、分配を行わない場合があります。 | |

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

| | 当ファンド | 日本株 | 先進国株 | 新興国株 | 日本国債 | 先進国債 | 新興国債 |
|-----|--------|--------|--------|--------|-------|-------|-------|
| 最大値 | 45.2 | 42.1 | 59.8 | 62.7 | 5.4 | 7.9 | 15.7 |
| 最小値 | △ 18.8 | △ 16.0 | △ 12.4 | △ 19.4 | △ 5.5 | △ 6.1 | △ 9.4 |
| 平均値 | 3.7 | 5.8 | 14.2 | 5.3 | △ 0.4 | 2.7 | 2.0 |

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2018年6月から2023年5月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。なお、当ファンドは2019年1月以降の年間騰落率を用いております。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

※分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算しており、実際の基準価額と異なる場合があります。

《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株：MSCI - KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債：NOMURA - BPI 国債

先進国債：FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債：JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド(円ベース)

※各指数についての説明は、後述の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

(2023年6月12日現在)

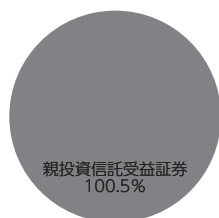
○組入上位ファンド

| 銘柄名 | 第11期末 |
|---------------------------|---------|
| シュローダー・ユーロ株式マザーファンド (ユーロ) | 100.5 % |
| 組入銘柄数 | 1 銘柄 |

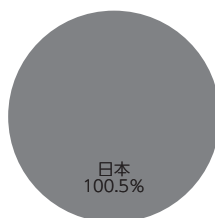
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書 (全体版) に記載しております。

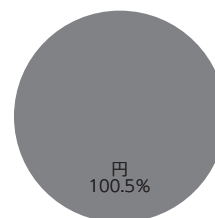
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国 (地域) もしくは投資国 (地域) を表示しております。

純資産等

| 項 目 | 第11期末 |
|-------------|-------------|
| | 2023年6月12日 |
| 純 資 産 総 額 | 95,387,107円 |
| 受 益 権 総 口 数 | 95,009,770口 |
| 1万口当たり基準価額 | 10,040円 |

* 期中における追加設定元本額は0円、同解約元本額は11,934,859円です。

[為替ヘッジなし]

運用経過

期中の基準価額等の推移

(2022年12月13日～2023年6月12日)



期首：10,281円

期末：10,758円 (既払分配金(税込み)：460円)

騰落率： 9.1% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算しており、実際の基準価額と異なる場合があります。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、期首 (2022年12月12日) の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 当ファンドの値動きを表す適切な指標が存在しないため、ベンチマーク等は設けておりません。

○基準価額の主な変動要因

期首10,281円でスタートした基準価額は、10,758円 (分配後) で期末を迎え、期首比9.1% (分配金再投資ベース) の上昇となりました。

当ファンドは前期末比でプラスのリターンとなりました (ユーロ・ベース)。MSCI EMUインデックス (ユーロ・ベース) と比較した場合、セクター別では、情報技術や資本財・サービスの銘柄選択がプラス効果となった一方、素材やコミュニケーション・サービスの銘柄選択がマイナスの影響となりました。

銘柄別では、米国の半導体グループであるNvidiaが非常に好調な業績見通しを発表したことを受け、AIによる成長期待に対する熱意の高まりにより、情報技術セクターは大幅にアウトパフォームしました。オランダの銘柄で、半導体製造装置メーカーであるASMIインターナショナルや、統合型の半導体実装装置メーカーであるBEセミコンダクター・インダストリーズの保有が主にプラス効果となりました。一方、ドイツの医薬品メーカーであるバイエルの保有がマイナスの影響となりました。株価の下落は、2023年度の業績予想が弱い内容であったためと考えられます。同社は、他社が生産を中止し

た除草剤グリホサートの部門で2022年に大きな利益を得ましたが、2023年は製品価格が低下しています。また、中国での大量販売（ただし価格は低位）の契約も失いました。ただし、同社の事業部門の分離計画について、次期CEOより更なる情報が得られることを期待しており、この計画は大きな価値を引き出す可能性があると考えています。

1万口当たりの費用明細

(2022年12月13日～2023年6月12日)

| 項目 | 当期 | | 項目の概要 |
|--|---------------------------------------|---|--|
| | 金額 | 比率 | |
| (a) 信託報酬 (投信会社) (販売会社) (受託会社) | 91 (45) (45) (1) | 0.836 (0.411) (0.411) (0.014) | (a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 ・ファンドの運用判断、受託会社への指図 ・基準価額の算出ならびに公表 ・運用報告書等法定書面の作成、および受益者への情報提供資料の作成等 ・運用報告書等各種書類の交付 ・口座内でのファンドの管理、および受益者への情報提供等 ・ファンドの財産保管・管理 ・委託会社からの指図の実行等 |
| (b) その他費用 (保管費用) (監査費用) (印刷費用) (その他) | 6 (0) (1) (5) (0) | 0.058 (0.003) (0.012) (0.043) (0.001) | (b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 ・保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用 ・監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 ・印刷費用は、印刷会社等に支払う運用報告書作成等に係る費用 ・その他は、グローバルな取引主体識別子 (LEI: Legal Entity Identifier) 登録費用、金銭信託手数料等 |
| 合計 | 97 | 0.894 | |
| 期中の平均基準価額は、10,853円です。 | | | |

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

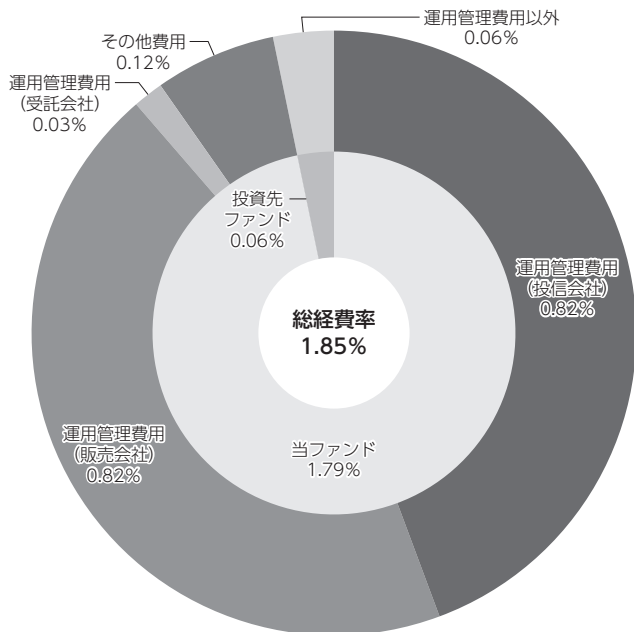
(注) 各項目の費用は、このファンドが組入れている投資信託証券（親投資信託を除く）が支払った費用を含みません。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

○総経費率

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.85%です。



(単位: %)

| 総経費率(①+②+③) | 1.85 |
|----------------------|------|
| ①当ファンドの費用の比率 | 1.79 |
| ②投資先ファンドの運用管理費用の比率 | — |
| ③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率 | 0.06 |

(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドの親投資信託が組み入れている投資信託証券です。

(注) 当ファンドの費用は、親投資信託が支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

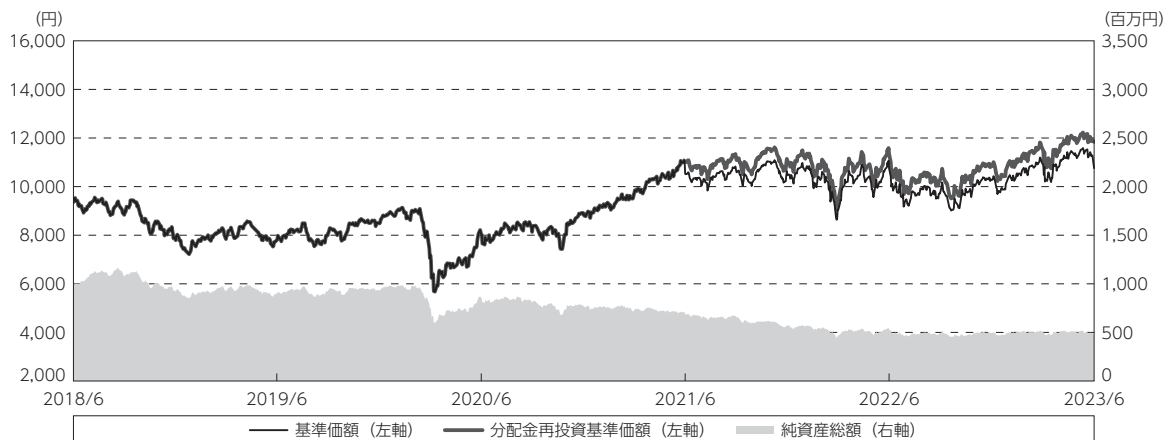
(注) 当ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 投資先ファンドの費用については、投資先ファンドの管理会社が発行する年次報告書（アニュアル・レポート）の記載に基づきます。なお、投資先ファンドの運用管理費用（信託報酬）は当ファンドの運用管理費用（投信会社分）から支払われるため、別に収受しておりません。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2018年6月11日～2023年6月12日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算しており、実際の基準価額と異なる場合があります。
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
 (注) 分配金再投資基準価額は、2018年6月11日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

| | 2018年6月11日 決算日 | 2019年6月10日 決算日 | 2020年6月10日 決算日 | 2021年6月10日 決算日 | 2022年6月10日 決算日 | 2023年6月12日 決算日 |
|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|
| 基準価額 (円) | 9,359 | 7,798 | 8,010 | 10,524 | 10,749 | 10,758 |
| 期間分配金合計(税込み) (円) | — | 0 | 0 | 500 | 80 | 460 |
| 分配金再投資基準価額騰落率 (%) | — | △ 16.7 | 2.7 | 37.6 | 2.9 | 4.4 |
| 純資産総額 (百万円) | 977 | 900 | 851 | 673 | 532 | 469 |

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
 (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
 (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。
 (注) 当ファンドの値動きを表す適切な指標が存在しないため、ベンチマーク等は設けておりません。

投資環境

(2022年12月13日～2023年6月12日)

当期のユーロ株式市場は上昇して終わりました。期初の2022年12月は下落しました。欧州中央銀行（ECB）が0.50%の利上げを決定した後、利上げを継続する方針を示したことが材料視されました。2023年1月は上昇しました。中国の経済活動の再開と、インフレの鈍化により金利のピークが近いことへの期待が支援材料となりました。2月は上昇し、エネルギー価格の上昇圧力が和らいだことを要因に、深刻な景気後退の懸念が緩和されたことが好材料となりました。3月は中旬にシリコンバレー銀行（SVB）など銀行の相次ぐ破綻を受けて米国の金融市場が混乱し、金融当局は投資家の懸念を払拭することに苦慮しました。欧州でも経営難に陥った金融機関のクレディ・スイスがスイス当局の仲介によりUBSに買収されるなど銀行セクターのボラティリティ（変動性）が高まりましたが、月末にかけて欧米の金融システムへの懸念が後退し市場は回復しました。4月も引き続き上昇し、企業業績が概ね堅調であったことが株価の支援材料となりました。5月は下落し、セクター別で半導体関連銘柄にけん引された情報技術が上昇した一方、その他の全セクターが下落しました。6月は当期末にかけて上昇しました。（株式市場の騰落は、ユーロ・ベースで記載しております。）

当ファンドのポートフォリオ

(2022年12月13日～2023年6月12日)

シュローダー・ユーロ株式マザーファンド（ユーロ）において、投資比率が高位であるシュローダー・インターナショナル・セレクトジョン・ファンド ユーロ・エクイティ クラスIの運用について

当期、ポートフォリオ構成の一部変更を実施しました。

セクター別では、ヘルスケアや一般消費財・サービスに対して強気の見方とし、保有比率を引き上げました。一方、素材やエネルギーに対して弱気の見方とし、保有比率を引き下げました。

銘柄別では、フランスの電気機器メーカーであるルグランに新規投資を行いました。住宅設備については、景気減速懸念、特に米国の住宅市場の低迷の影響を受けています。しかしながら、非住宅部門は回復しつつあります。同社は、強固なバランスシートを有している高クオリティ企業であり、運営も順調であると評価しています。電気機器業界は規制が強化されており、高い参入障壁があります。また、同社はデータ・センターの成長機会を有し、そのニーズはデジタル革命の進行とAIの利用と共に高まっている中、将来の高い成長に繋がると予想しています。一方、オーストリアの産業機器メーカーであるアンドリッツについては、株価が堅調に推移したため、利益確定のため全売却を行いました。

当ファンドのベンチマークとの差異

(2022年12月13日～2023年6月12日)

当ファンドの値動きを表す適切な指標が存在しないため、ベンチマーク等は設けておりません。

分配金

(2022年12月13日～2023年6月12日)

収益分配金につきましては、基準価額水準、市場動向、信託財産の規模等を考慮し、1万口当たり課税前で460円とさせていただきます。なお、留保益については、特に制限を設けず、当社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

○分配原資の内訳

(単位:円、1万口当たり、税込み)

| 項 目 | 第11期 |
|-----------|----------------------------|
| | 2022年12月13日～ 2023年6月12日 |
| 当期分配金 | 460 |
| (対基準価額比率) | 4.101% |
| 当期の収益 | 460 |
| 当期の収益以外 | — |
| 翌期繰越分配対象額 | 1,319 |

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

ユーロ株式市場は、2023年初来では深刻な景気後退が回避される中、底堅く推移しています。しかしながら、経済成長や金利の先行きについては依然として懸念が残ります。

雇用は引き続き堅調ですが、消費者の可処分所得が金利上昇によって圧迫され続ければ、特定のセクターで売上が縮小する可能性があります。また、消費者が特定の支出(例えば旅行など)を他の支出より優先させることも考えられます。

また、M&Aの動きが活発化する可能性があるかと、引き続き考えています。2023年4月に実施されたSoftware AGへの入札は、過去1年間に割安となった中小型の企業が魅力的な買収のターゲットになっていることを示しています。

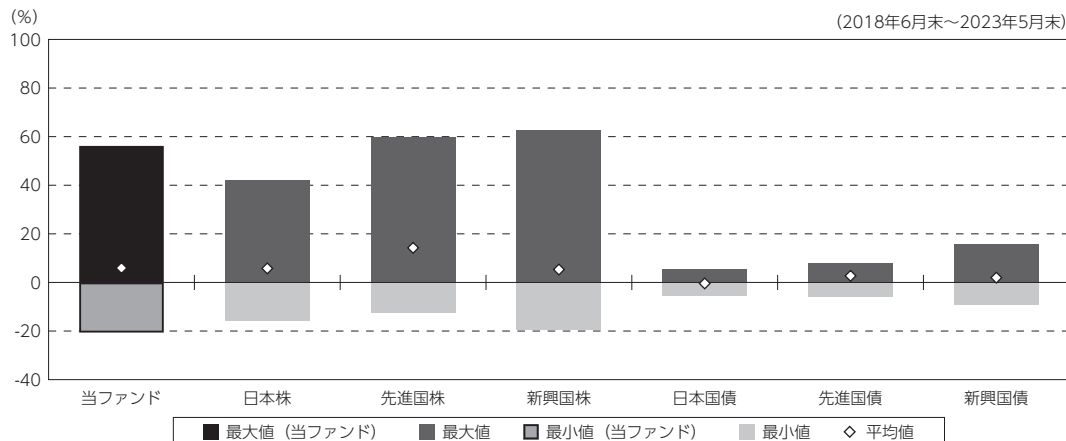
こうした環境下、当ポートフォリオでは引き続き銘柄固有リスクを重視し、スタイルやファクターにかかわらず成長要因を有し、株価が割安な水準にある銘柄を追求していきます。景気循環に連動する銘柄とディフェンシブ性を有する銘柄とのバランス、またグロース銘柄とバリュー銘柄とのバランスを維持した構成とする方針です。

当ファンドの概要

| | | |
|--------|--|---|
| 商品分類 | 追加型投信／海外／株式 | |
| 信託期間 | 2018年1月22日から2027年12月10日まで | |
| 運用方針 | 信託財産の成長を目指して運用を行います。 | |
| 主要投資対象 | 当ファンド | シュローダー・ユーロ株式マザーファンド（ユーロ）受益証券を主要投資対象とします。 |
| | マザーファンド | <ul style="list-style-type: none"> ・ルクセンブルグ籍ユーロ建て外国投資法人 「シュローダー・インターナショナル・セレクション・ファンド ユーロ・エクイティ クラスⅠ投資証券」 ・ルクセンブルグ籍ユーロ建て外国投資法人 「シュローダー・インターナショナル・セレクション・ファンド ユーロ・リクイディティ クラスⅠ投資証券」 ・ルクセンブルグ籍米ドル建て外国投資法人 「シュローダー・インターナショナル・セレクション・ファンド ドル・リクイディティ クラスⅠ投資証券」 上記の指定投資信託証券を主要投資対象とします。 |
| 運用方法 | マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に主としてユーロ圏各国の企業が発行する株式などに投資を行います。実質外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。 | |
| 分配方針 | 毎決算時（毎年6月10日および12月10日。ただし当該日が休業日の場合は翌営業日）に原則として経費控除後の繰越分を含めた利子・配当収入と売買益（評価益を含みます。）等から、基準価額水準、市場動向等を勘案し決定します。 なお、分配を行わない場合があります。 | |

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

| | 当ファンド | 日本株 | 先進国株 | 新興国株 | 日本国債 | 先進国債 | 新興国債 |
|-----|--------|--------|--------|--------|-------|-------|-------|
| 最大値 | 56.2 | 42.1 | 59.8 | 62.7 | 5.4 | 7.9 | 15.7 |
| 最小値 | △ 20.6 | △ 16.0 | △ 12.4 | △ 19.4 | △ 5.5 | △ 6.1 | △ 9.4 |
| 平均値 | 5.9 | 5.8 | 14.2 | 5.3 | △ 0.4 | 2.7 | 2.0 |

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2018年6月から2023年5月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。なお、当ファンドは2019年1月以降の年間騰落率を用いております。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

※分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算しており、実際の基準価額と異なる場合があります。

《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株：MSCI - KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債：NOMURA - BPI 国債

先進国債：FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債：JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス - エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド (円ベース)

※各指数についての説明は、後述の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

(2023年6月12日現在)

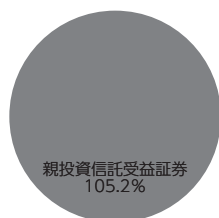
○組入上位ファンド

| 銘柄名 | 第11期末 |
|---------------------------|--------|
| シュローダー・ユーロ株式マザーファンド (ユーロ) | 105.2% |
| 組入銘柄数 | 1銘柄 |

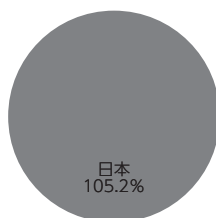
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書 (全体版) に記載しております。

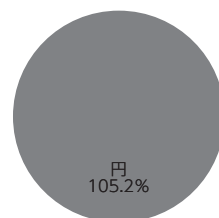
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国 (地域) もしくは投資国 (地域) を表示しております。

純資産等

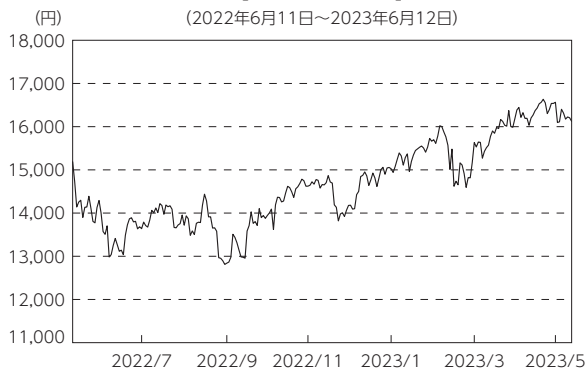
| 項 目 | 第11期末 |
|-------------|--------------|
| | 2023年6月12日 |
| 純 資 産 総 額 | 469,308,010円 |
| 受 益 権 総 口 数 | 436,252,945口 |
| 1万円当たり基準価額 | 10,758円 |

* 期中における追加設定元本額は9,647,147円、同解約元本額は54,606,002円です。

組入上位ファンドの概要

シュローダー・ユーロ株式マザーファンド（ユーロ）

【基準価額の推移】



【1万口当たりの費用明細】

(2022年6月11日～2023年6月12日)

| 項 目 | 当 期 | |
|---------------|-----|---------|
| | 金 額 | 比 率 |
| | 円 | % |
| (a) そ の 他 費 用 | 1 | 0.006 |
| （ 保 管 費 用 ） | (1) | (0.005) |
| （ そ の 他 ） | (0) | (0.002) |
| 合 計 | 1 | 0.006 |

期中の平均基準価額は、14,684円です。

(注) 上記項目の概要につきましては運用報告書(全体版)をご参照ください。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各項目の費用は、このファンドが組入れている投資信託証券(投資証券等を含む)が支払った費用を含みません。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

【組入上位ファンド】

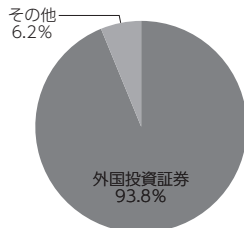
(2023年6月12日現在)

| 銘柄名 | 第8期末 |
|--|--------|
| シュローダー・インターナショナル・セレクトジョン・ファンド ユーロ・エクイティ クラスI | 93.8 % |
| シュローダー・インターナショナル・セレクトジョン・ファンド ユーロ・リクイディティ クラスI | 0.0 |
| 組入銘柄数 | 2銘柄 |

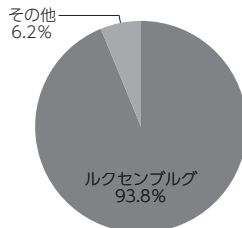
(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

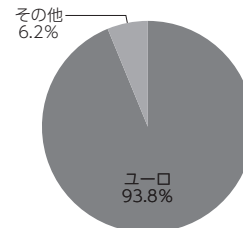
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

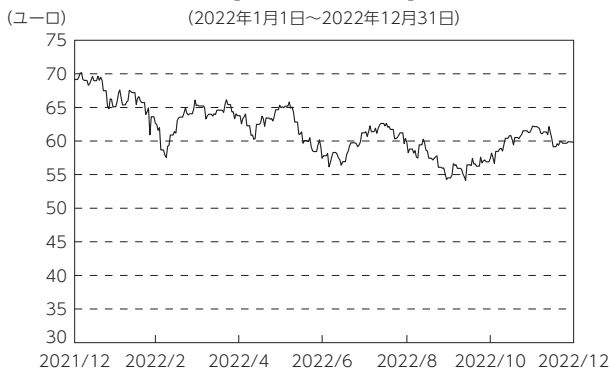
(注) 国別配分につきましては発行国(地域)もしくは投資国(地域)を表示しております。

※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書(全体版)をご参照ください。

<ご参考>

シュローダー・インターナショナル・セレクション・ファンド ユーロ・エクイティ クラスⅠ投資証券

【配当込価格の推移】



【1万口当たりの費用明細】

(2022年1月1日～2022年12月31日)
当該期間の1万口当たりの費用明細については、開示されていないため、掲載しておりません。

【上位10銘柄】*

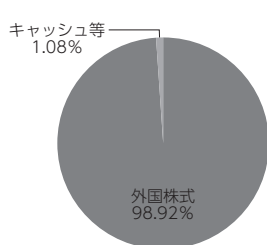
(2022年12月31日現在)

| | 銘柄名 | 業種 | 通貨 | 国(地域) | 比率 % |
|----|----------------------|------------|-------------|--------|------|
| 1 | バイエル | ヘルスケア | ユーロ | ドイツ | 5.07 |
| 2 | フィナンシエール・リシュモン | 一般消費財・サービス | スイス・フラン | スイス | 4.99 |
| 3 | キアゲン | ヘルスケア | ユーロ | ドイツ | 4.37 |
| 4 | バイヤスドルフ | 生活必需品 | ユーロ | ドイツ | 3.66 |
| 5 | BE・セミコンダクター・インダストリーズ | 情報技術 | ユーロ | オランダ | 3.57 |
| 6 | フォーダム | 公益事業 | ユーロ | フィンランド | 3.44 |
| 7 | ポルシェ・オートモービル・ホールディング | 一般消費財・サービス | ユーロ | ドイツ | 3.33 |
| 8 | MTU エアロ・エンジンス | 資本財・サービス | ユーロ | ドイツ | 3.30 |
| 9 | SKF | 資本財・サービス | スウェーデン・クローナ | スウェーデン | 2.72 |
| 10 | ワールドライン | 情報技術 | ユーロ | フランス | 2.65 |
| | 組入銘柄数 | | 50銘柄 | | |

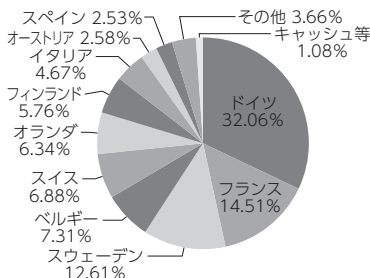
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、表紙記載の委託会社のホームページ、「投資信託一覧」から当ファンドを選択することにより、「投資対象外国籍投信の組入明細等」を閲覧およびダウンロードすることができます。

(注) 上位10銘柄については、投資先ファンドの管理会社が発行する年次報告書（アニュアル・レポート）の分類に基づき、投資先ファンドの純資産総額（先物取引や先渡取引等を除く資産の評価額の合計）に対する比率を記載しております。

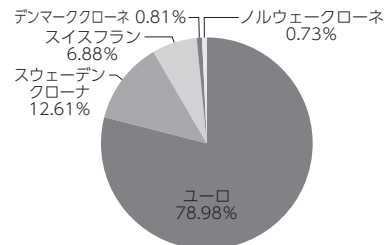
【資産別配分】*



【国別配分】*



【通貨別配分】*



*シュローダー・インターナショナル・セレクション・ファンド ユーロ・エクイティ クラスⅠ投資証券のマスターファンドの実績です。

(注) 国別配分につきましては発行国（地域）もしくは投資国（地域）を表示しております。

〈代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について〉

○東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

東証株価指数 (TOPIX) (配当込み) は、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、配当を考慮したものです。なお、TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は株式会社 J P X 総研又は株式会社 J P X 総研の関連会社に帰属します。

○MSCI-KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース)

MSCI-KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース) は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc. に帰属します。

○MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース) は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc. に帰属します。

○NOMURA-BPI 国債

NOMURA-BPI 国債は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA-BPI 国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属します。

○FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース) は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、FTSE 世界国債インデックスに関する著作権等の知的財産権その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。

○JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド (円ベース)

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド (円ベース) は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。

MSCIは、本資料に含まれるいかなるMSCIのデータについても、明示的・黙示的に保証せず、またいかなる責任も負いません。MSCIのデータを、他の指数やいかなる有価証券、金融商品の根拠として使用する、あるいは再配布することは禁じられています。本資料はMSCIにより作成、審査、承認されたものではありません。いかなるMSCIのデータも、投資助言や投資に関する意思決定を行うこと (又は行わないこと) の推奨の根拠として提供されるものではなく、また、そのようなものとして依拠されるべきものでもありません。